

■水谷彰良 (音楽学)

マウロ・ジュリアーニはベートーヴェン時代のウィーンで高い評価を得たギタリスト。当盤は14曲の歌曲と3曲のギター独奏曲からなり、古楽ソプラノとして実績のあるロッサーナ・ベルティーニが美麗な声と清涼なアジリタで丁寧に歌い上げる。録音は5年前だが、初リリースと聞く。伴奏とソロは中堅ギタリストのダヴィデ・フィッコ、使用楽器は1837年製のルイ・パノルモ。柔らかな音色と豊かな響きを備え、声との相性も良い。但し、教会内の録音とあって歌の残響の多さが気になる。各6曲の2つの歌曲集はシンプルだが、爽やかな曲が多い。ギター曲は英雄的大ソナタが変化に富み、楽しませる。ロッシーニ好きの筆者は、最後のタンクレデーのカヴァティーナによる主題と変奏(ポレロ風、作品79)に大満足した。

Giuliani, Mauro




推



マウロ・ジュリアーニ:
声楽とギターのための
作品集

(同:大序曲Op.61,6つのアリエッタOp.95,ヘンデル:《調子の良い鍛冶屋》の主題による変奏曲Op.107,ロマンスOp.27,英雄的大ソナタOp.150,6つのカヴァティーナOp.39,カヴァティーナOp.79)

ロッサーナ・ベルティーニ
(S)ダヴィデ・フィッコ(g)
(録音:2013年7月)
[Tactus©TC780703]

*各筆者により、ディスクの内容が下記の5つの項目のいずれかに該当すると判定された場合、対応するマークを付しました。

特 筆者の「今月の特選盤」広くお薦めしたい優秀盤 **推** 筆者の「今月の推薦盤」特選盤まであと一歩  特筆すべき音質優秀盤 (新録音/リマスター)

 世界初または希少録音の曲を含む盤  マニア向き